

女性たちの市政懇談会 会議録

日時：令和6年2月6日（火）19：00～20：30

場所：魚津市役所 3階 大会議室

市側出席者：市長・教育長・女性活躍社会推進室長・

民生部長・総務部次長・女性活躍社会推進室長代理

参加者： 40名

（参加団体：cocomama、NAPs、※SODO、魚津市女性スポーツの会、うおづ女性ネットワーク、グループ波
魚津市更生保護女性会、魚津市農業協同組合女性部、魚津商工会議所、魚津市男女共同参画地域推進員）

開催目的	うおづ女性の会連絡会の活動休止に伴い、長年続けてきた市政懇談会も終了することとなった。そこで、女性の声を市政に届ける機会を創出するため「女性たちの市政懇談会」を実施する。
------	---

テーマ：防災を考える ～私たちができること。行政に求めること。～

◆令和6年能登半島地震について 防災危機管理室統括監（女性活躍社会推進室長）

広田 雅樹

ワークショップを始める前に、令和6年能登半島地震の概況及び近隣の被害状況、魚津市の対応状況などについて、資料に基づいて説明。



A グループ

テーマ	◆災害に対する日頃の備え ◆避難所の運営
意見	◆災害に対する日頃の備え ・何も準備していなかった。元日にあわてた。 ・津波から身を守るためには、上に上ること。 ・倒壊を防ぐために、耐震や免振を進める。 ・避難用の防災用品の準備。 (リュックに詰める。ガスコンロ、缶詰なども必要) ・ハザードマップがLINEで見られないのか。 ◆避難所の運営 ・備蓄品があること。現場に備蓄品があるとよい。 ・オムツは子供用と大人用が必要。生理用品 ・更衣室、パーテーション、ワンタッチテントなどがあるとよい。 ・女性の相談に乗れる場所があるとよい。



B グループ

テーマ	◆災害に対する日頃の備え ◆避難所の運営
意見	◆災害に対する日頃の備え ・家族との避難場所などをしっかり確認しておく。 ・地域との連携。地域の人たちと顔見知りであること。 ・各家庭での備えが大切。 ◆避難所の運営 ・衛生環境、衛生用品の確保（高齢者、幼少児） ・弱者対応。高齢者や幼い子に対して声掛け、介護 ・炊き出しなどができる人がいればよい。せっかく材料等の準備がしてあってもそれをする人がいないと避難者に届かないことになる。 ・リーダーシップをとる人がいるとよい。全体としてパニックになっている中、その場をまとめてくれる人がいると安心感がある。 ◆その他 ・震度4で市役所は大丈夫だったのか？安全な市役所を作ってほしい。



C グループ

テーマ	◆災害に対する日頃の備え ◆避難所の運営
意見	◆災害に対する日頃の備え ・日頃から食料品や防寒具などを準備しておく。 ・お風呂の湯を溜めておく。 ・家族の行き先や避難先を日頃から共有しておく。 ・車内に防災用品を備えておく。 ・自家用車のガソリンはこまめに給油することも備えになる。 ・近隣に車で移動できない人がいたら、一緒に乗せて逃げる。 ・ブレーカーを下げてから逃げる。（火事の予防） ・日頃から自分の足腰を鍛えておく。 ◆避難所運営 ・運営側の人が、避難所に到着したとき、「早く開けろ」「遅い」などの罵声を浴びた。今でも夢に見る。家を守る選択肢はなかった。 ・避難所では、人の嫌なところが見えてくることがある。 ・女性が暴力にあいやすい。相談しやすいように、本部受付に女性の担当を配置する。 ・拡声器の音が風などで聞こえにくくなるので、各家庭に防災無線を置くなどしてほしい、 ・受付名簿を用意しておく。 ◆その他 ・今回の地震では、命を守るために各々が行動した。それぞれの立場で頑張ったと思う。

Dグループ

テーマ	◆災害に対する日頃の備え ◆自主防災組織への女性の参画
意見	◆災害に対する日頃の備え （家庭での備え） ・防災リュックの準備 ・食料品等の備蓄をしているが、置き場所を考える必要がある。押し入れに入れておいてもいざという時に取りに行けない。 ・何を備えておくか、置き場所はどこが良いかなどの家庭での備えに対する防災の講座を公民館レベル単位で実施する。 （地域での備え） ・町内の弱者の把握（高齢者、幼少児のいる家庭、妊婦、ワンオペ育児ママ、転勤族のパパ） ・近所の人情報が大事 ・アパートの住人は、町内会などに加入していない人が多く孤立しがちである。こういう人の方が避難場所や地域の情報を知らないのではないか。 ・繋がっている人でLINE グループを作って連絡を取れるようしておく。 ◆自主防災組織への女性の参画 ・そもそも自主防災組織を知らない。 ⇒地域の防災士など防災の知識のある人から学ぶ機会を持つことが大事。各団体の長だけでなく、地域のいろんな人たちにもいろんな機会を通じて必要。若い人たちもそういう知識を持つことが必要。 ・自主防災組織の構成を女性半分、男性半分にしていく。 ・女性の意見を組織の長に堂々と言えるようになることが命を守るために大事。 ・女性特有の主張をはっきりと恥ずかしがらずに言えること。 ・一人になれる空間は必要。なぜ必要なのかを普段の中で理解してもらうことが大事。



Eグループ

テーマ	◆災害に対する日頃の備え ◆自主防災組織への女性の参画
意見	◆災害に対する日頃の備え ・訓練ではない災害にあった。自分は動けなかったが、後日みんなが逃げていたのだと知った。毎年防災訓練している。車の移動をせず、歩いて移動をと訓練していたのに、あれだけの車の移動をしてるのかとか驚いた。訓練と実際は違うことを痛感した。 ・自分の家の海拔を知らない人がいた。 ・家庭での備蓄品のあり方を考える。 ・報道では、今回、避難所では更衣室が作られていなかったと言っていた。 ◆自主防災組織への女性の参画 ・自主防災組織がどのような働き、組織化されているのかを把握していない ・自主防災組織の必要性を強く感じた。自主防災組織に女性を半分入れてほしいなと思った。「入れてほしいな」と言うのは他人事である。自分事として考えること。まず、自分から「入れてください」と、ここに参加した人たちは言ってほしい。行政の方からもそれを後押ししてほしい。 ・自分たちは何もしないのに、鍵が開かないと怒るおじさんたちと一緒にならないようにしたい。



Fグループ

テーマ	◆災害に対する日頃の備え ◆自主防災組織への女性の参画
意見	〈参加者の震災体験から〉 震災を体験した。宿泊先で地震に遭い、「急いで逃げて」と言われ、外に出た。今度は「津波が来るので、上に上がってください。」と言われ、建物の上の階に上がった。テレビも見られず情報がなかった。 地震の時は、携帯電話の回線がパンクし、充電もできない。今の状況が知りたくて、必死に携帯で情報を探していた。 あのような地震が、もし、今日起きていたらどうだっただろうか。今回は、家族と一緒にいた方が多かったと思うが、今日の同じ時刻に地震があれば、私と夫は仕事をしている。子どもたちは学校。市外の高校に通学している子は富山駅にいたかもしれない。このようなことを考えると、家族との連絡方法の再確認をする必要があると思った。

	備蓄品として、水や食料品などを備えておくことは大事であるが、リュックの中に準備しているものが本当に正しいのか。そのリュックを持って逃げた人がどのくらいいたのか。 命を守るために、その時、正しい行動は何かを落ち着いて考える。心の余裕を持って行動できるとよいと思った。 ◆災害に対する日頃の備え ・ 命を守る行動、正しい行動をとろう。 ・ 家族との連絡方法などを共有しておく。 ・ 備蓄品の備え。リュックの中に何を準備しておくのが本当に正しいのか？ ・ 緊急情報サービスの登録、ハザードマップで避難が必要な範囲を確認しておく。 ・ 避難が必要か、どこに避難するのが良いのかなど正しい判断ができるような知識を持つことが大事。 ◆自主防災組織への女性の参画 ・ そもそも自主防災組織とは何か知らない人が多い。？ ・ 婦人会など地域の中でのコミュニケーションや横のつながりが昔ほどなくなっている。 しかし、地域のことをよく知っているのは、女性である。隣の人やスーパーで知人と話をする機会が多い。女性ならではの地域の風土や関係を把握しているので、地区のボランティアグループを作ったり、少し心に余裕ができたなら、声をかけたりして地域のつながりができていったらよいと思った。
--	---



講評 (市長)	今回の地震のテーマを女性のみなさんと話できてよかった。 まずは自分の命、家族の命をどうやって守ること 地域であれば、個人個人でやっても大変である。リーダーづくりや学ぶ機会を持つことが大事であると再認識した。 今回の地震は、元旦のこれまでに経験ない揺れ、津波警報といくつものアクターが重なった。全てをまとめて考えると大変だと思っている。 まずは、最初の行動として自分の命、家族の命を守るため、しかも短い時間で何をするかという共通認識を持つことが重要であると思っている。それを地域のみなさんと、お話ししながら考えていく機会を早く作っていきたい。そのうえで避難所の話になるのかと思っている。 たくさんの意見をいただいた。しかし避難所の運営について100%備えることは無理である。時間等によって何が必要かを考えていかなければならない。
--------------------	---

各グループの発表資料

A グループ

[illegible]

避難所の運営について

すぐ慣れること
出来るように
することに

かきまいてね
とまは
を皮でいい

一次解題に
使うこと
3/25-1

儲蓄物は
移住かよこ
しないように
おへす

- 食物、衣服
- 灯油
- 毛巾
- 水

- ・11V(●)箱
- ・おまつてま
- ・生理代

著者 菅 二 づ ー ス
流 ら ぬ の
み や り 子
じ ょ う づ ー ス

- パーティション
- ワンダーキック
- 男性と女性の
引合の部屋
必要

4. 4. の増強に
のける対策が
必要



Bグループ

災害に対する日頃の備え

B

避難所の運営について

家族

- 集合場所を家族で確認
- 集合場所(家族)
- 避難場所の確認
- 近くの避難所の場合に歩く
- 家族と避難場所の確認
- 家族間の連絡方法を確保する
- 家族時間

備え

- 防災グッズ
- 防災バックを用意する
- 防災ケースを用意して持ち歩く
- 防災グッズ
- 水・食料
- 水の準備
- 水の用意が必要だと思つた
- 衣・食・住
- 手ぶらで避難

衛生環境

- 子供たちの遊びの場
- 汚乳処理の仕組みを確保
- 避難所での生活に必要
- 着がくできるもの(毛布など)
- 最低限の生活

避難所

- 高齢者や病気の人の対応
- 妊婦さんや赤ちゃんのケア
- 優先者の順位づけ
- 高齢者の対応
- 妊婦さんや赤ちゃんのケア

備蓄品

- 備蓄品
- 備蓄品の確認
- 海岸線
- 食料の確保
- 衛生用品
- 水・食料
- 寒・暑対策
- 生活必需品

地域

- 近所と連絡をとれるように
- 高齢者への呼びかけ
- 地域の連携

衛生用品の備え

- 衛生用品の備え(大人・子供)
- 車のタンクに常にある
- トイレの確保
- トイレの確保

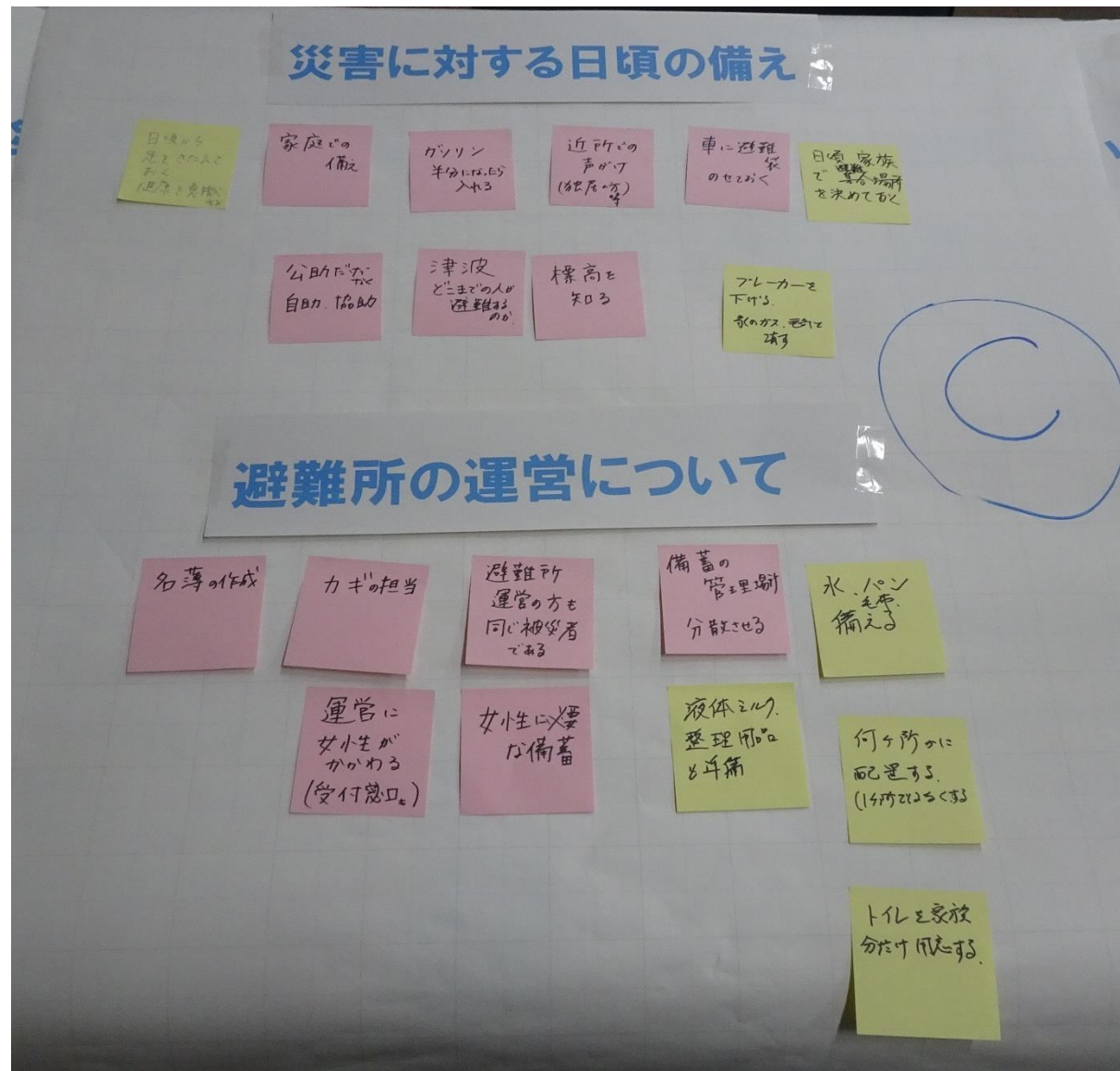
運営

- 避難所の長期化対応
- 役割の作成
- 家族や地域の関係者との連携
- 避難所の運営担当者

初期対応

- 初期対応
- 避難所の運営
- 避難所の運営

C グループ



Eグループ



Fグループ

